

1月12日
(日)

一流の指導に真剣なまなざし

—郡上市青少年剣道技術向上プロジェクト—

大和中学校武道場において、剣道範士八段の林邦夫氏を講師に招き、市内の小学生高学年から高校生までを対象とする技術向上を目指した講習および指導法の研修会が開催されました。厳粛な雰囲気の中、参加者は真剣なまなざしで林氏の指導を受けられました。また、林氏は郡上市スポーツアドバイザーになられ、郡上市の剣道の発展を後押しされます。



◀林講師の指導を真剣に聞く選手たち

1月9日
(木)

ゴールドマークプレート交付 郡上市第1号

—総務省消防庁消防団協力事業所表示証伝達—

明宝特産物加工株式会社は、従業員数に占める消防団員の割合および消防団活動への配慮等の取り組みが認められ、総務省消防庁から消防団協力事業所表示証の交付を受け、日置市長に報告されました。県内では23事業所が交付を受けており、郡上市では初めての交付となり、地域の防災意識の向上が期待されます。



◀交付を受けられた明宝特産物加工(株)蒲社長(中)

1月17日
(金)

100歳おめでとうございます!

—長寿者褒賞—

大和町の河合つた子さんのご自宅に日置市長が訪れ、お祝いの言葉をかけ、花束などを手渡しました。河合さんは「ご丁寧にあありがとうございます。自分で出来ることは自分でやるようにしています。家では新聞や広報を読んだり、クロスワードパズルを解いたりしています。」と笑顔で話されました。いつまでもお元気で。



◀河合つた子さん 大和町 大正9年1月19日生まれ

1月16日
(木)

受賞おめでとうございます!

—文部科学大臣優秀教員表彰受賞—

明宝中学校の遠藤智和教諭が、ふるさと教育の推進に向け、学校と地域の連携に貢献したことが評価され、文部科学大臣優秀教員表彰を受賞しました。遠藤教諭は、「光栄で身が引き締まる思いです。周囲のみなさん、そして生徒たちに支えられ、教師をやっているということを感じます。これからも貢献していきたいです。」と、喜びを語られました。



◀受賞の喜びを報告した遠藤教諭(左)

1月25日
(土)

新しい車両等を貸与

—消防団車両等貸与式および配属式—

市では、郡上市消防団が使用する車両や小型動力ポンプについて、基準年数に達したものから順次更新しています。今回、消防本部において消防団車両等貸与式及び配属式が行われ、消防ポンプ自動車、消防小型動力ポンプ積載車、小型動力ポンプが八幡、大和、白鳥、高鷲、美並、明宝の各方面隊へ配備されました。



◀新たに各方面隊へ貸与された車両

1月24日
(金)

受章おめでとうございます!

—紺綬褒章の伝達—

白山文化の継承および地域の発展と振興のために、多額の寄附をいただいた朝日澄雄さん(白鳥町)に、市長より感謝の言葉とともに紺綬褒章が伝達されました。朝日さんは白山文化を多くの方々に知っていただくことで末永く継承されることや、郡上市がさらに発展することを望まれていました。



◀紺綬褒章を受章された朝日澄雄さん(中)、妻の敏子さん(右)

1月30日(木)、
1月31日(金)

全国大会出場おめでとうございます！

—全国大会出場者激励会—

2月21日(金)から北海道で開催される、2020年第7回スペシャルオリンピックス日本 冬季ナショナルゲーム・北海道のアルペンスキー競技に出場される、鷲見拓真さん(高鷲町)と面田幸弥さん(高鷲町)の激励会が開催されました。激励会に出席した鷲見さんは「家族と一緒に練習してきたので、頑張りたい」と大会での健闘を誓いました。

2月5日(火)から長野県で開催される、令和元年度全国中学校体育大会 第57回全国中学校スキー大会に出場される、高鷲中学校2年生の中屋柚花さん(高鷲町)の激励会が開催されました。中屋さんは、「県や学校の代表として、支えてくれた人への感謝の気持ちを忘れず精一杯滑りたい」と大会への抱負を話されました。



◀右からスペシャルオリンピックス日本・岐阜県木村事務局長、鷲見選手、高橋主任コーチ



◀健闘を誓う中屋選手(中央)

以下の選手も全国大会へ出場します。※1月31日までにスポーツ振興課へ報告があった選手を掲載しています。

所属	氏名	大会名	期日	会場
飛騨高山高校 (高鷲町在住)	かわばた ちさと 川端 千聖	令和元年度全国高等学校総合体育大会 第69回全国高等学校スキー大会	2/3～2/7	赤倉観光リゾート スキー場(新潟県)
		第75回国民体育大会冬季大会スキー競技会	2/16～2/19	たいらスキー場(富山県)

郡上の山をもっと知ろう！

郡上の木育

郡上市は面積の9割を森林が占めていますが、子どもだけでなく大人も森林や木に接することが少なくなっています。市では、学校等と連携し森林学習・木育を一層推進し、将来の山・地域・林業を支える人材の育成を目的に、清流の国ぎふ森林・環境税を活用して木育を行っています。

◎木育とは

子どもの頃から木を身近に使っていくことを通じて、人と山や森、木との関わりを考える心を育てていく取り組みのことをいいます。

◎取り組みの紹介

◆学童用机保護天板の製作

市内の小学校4校で、県内産の間伐材から作られた学童用机保護天板(YUME I T A:夢板)の裏面に将来の夢や今年の目標を書き、手形を押し、児童が自ら仕上げ、完成させました。授業の中で郡上の森林について学ぶとともに、夢板となる木が、木を伐る人→製材する人→組み立てる人→塗装する人など多くの人の手を経て届いていることを学び、自分と森林や木材とのつながりを考える機会となりました。また、大和南小学校では、1年生の家庭教育学級として、山や木について親子で学ばれました。なお、夢板は毎年の成長を記録し、卒業時にファイル型に加工し児童に贈られます。

◆マイ下駄づくり

市内の小中学校11校で、夏のおどりシーズンに向けて、郡上市産材のヒノキを材料とした「おどり下駄」を自らデザイン、仕上げ、鼻緒の取り付けを行い、世界で一つだけの「おどり下駄」を製作しました。ここでも郡上の森林について、植林→伐採→製材→加工など、林業に携わる人たちのつながりやその役割、同時に地域文化の重要性についても学ばれました。



◀森林学習 山から夢板になるまで



◀YUME I T A 将来の夢を書き、手形を押し自分で仕上げる



◀マイ下駄 自分だけのおどり下駄を作る